

企画事業 「特定の状況にある青少年への支援を行う事業」

事業名	不登校児童生徒対応事業 いきいき自然体験キャンプ	
実施期	平成22年9月28日(火)～10月1日(金)	
担当者	企画指導専門職 北岡 哲治	

I 事業の趣旨

近年、子どもたちの中でいじめや暴力行為、長期欠席などの問題行動は増加傾向にある。その背景には、子どもたちが家庭や学校生活の中で派生する様々な悩みやストレス等を解決できずに抱え込んでしまい、不登校となる例が増えている。文部科学省では、不登校の背景として、近年の子どもたちの社会性等をめぐる課題、例えば、自尊心に乏しい、人生目標や将来の職業に対する夢や希望等を持たず無気力な者が増えている、学習意欲が低下している、耐性がなく未成熟であるといった傾向と、学校に行かなければならないといった義務感や学校へ行かないことに対する心理的負担感が薄れてきている傾向があることを調査報告でまとめている。

これを踏まえ、「いきいき自然体験キャンプ」を実施することにより、様々な事情で特別な支援を必要としている児童生徒に自然の教育力を生かした多くの感動体験等を味わわせ、青少年の人間性や社会性を育て、個々の抱える物の見方、考え方等の課題にせまることにより、学校復帰や社会的な自立を促すきっかけづくりとなることができると考える。

II 事業の概要

1 事業の目的

心因性の不登校児童生徒を対象に、渡嘉敷島の豊かな自然の中でさまざまな体験をすることを通して、児童生徒一人一人が自分の世界を広げ、自己を見つめるきっかけとする。さらに、社会生活への適応を支援する。

2 参加対象及び募集人員

心因性の不登校児童生徒 50名程度
児童生徒の関係者（適応指導教室職員・保護者）
20名程度

3 参加状況

参加者は、児童生徒29名、適応指導教室職員20名、保護者1名、計50名の参加であった。

4 実施上の留意事項

ボランティア等のスタッフの数を増やし、健康管理と安全管理の両面から実施にあたった。

健康管理にあたっては、事業実施前や活動中の健康管理や体調チェックを十分に行った。また、9月下旬から10月下旬の秋での実施であるが、熱中症予防のために水分補給や休養を十分にとらせるようにした。

安全管理にあたっては、各プログラムでの活動中は、講師（臨床心理士）、ボランティア、職員スタッフ、引率職員で児童生徒を観察し、必要に応じた支援を行った。海洋研修では、陸上および海上からの監視体制を敷き、安全に活動ができるよう配慮した。

さらに、キャンプ場における事前踏査での安全確認、緊急避難用のバンガロー（あざみ）における毛布やタオルケットの準備・確認等を行った。

また、悪天候等で日程を計画どおりに実施できない場合に備え、代替プログラムを検討しておくことが必要である。

5 活動のようす

1日目 テント設営のスキルの習得を行う。
火おこし体験、野外炊飯



《テント設営の実際》



《 ゆとりの時間でのオセロゲームの一コマ 》



《 スタッフ会議での日程の確認及び情報交換 》



《 火おこし体験 》
「うまく火がつかますように. . . 」

2日目 朝のつどい、野外炊飯、海洋研修



《 朝のラジオ体操 》



《 みんなで食事の準備をしています 》



《 キャンプ場での食事風景 》



《 いざ、スノーケリングへ出発！！ 》

3日目 午前中はテント撤収と海洋研修、午後から本館でのスポーツ交流。



《 サンド造形のーコマ 》



《 3日目の午後は、自分の好きなスポーツに取り組む。写真は卓球を楽しむ参加者 》

4日目 参加者全体での五色綱引きとグラウンドゴルフ。



《 室内レクで盛り上がった五色綱引き 》



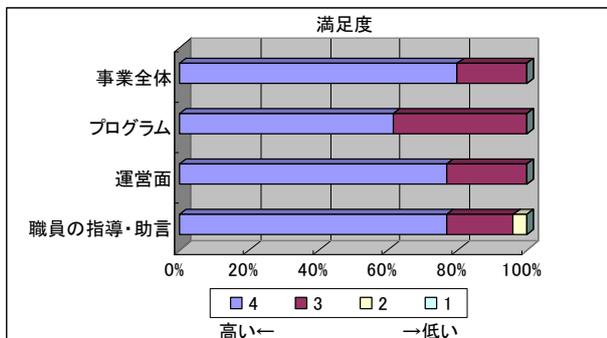
《 グラウンドゴルフでのナイスショット 》



《 ふりかえりの時間 》

6 アンケート結果

アンケートの結果から、「満足」「おおむね満足」を含めると全て95%以上の満足度となった。参加者の自由記述から、「楽しい体験をすることができた」とか「満足した」という意見と、「もっとゆとりがほしかった」「交流する機会があまりない」といった意見も挙げられた。



《良かった点》

〈参加児童・生徒〉

- 海で泳いだり、星座を見たり、火おこしなどいろいろな体験をしてとても楽しかった。テントを張ったりいつもはできない体験ができた。
- 友達もたくさんできたいろいろな人と話ができたのでとてもたのしかったです。何より同じ学級のみんなどかなり親しくなれたのでとてもよかった。本当にまた来たいです！！
- このキャンプでお手伝いをしたり他の子達と交流を深めることができた。他にもレクリエーションや海洋研修、野外炊飯などを楽しく積極的に活動することができた。すごく楽しかった。

〈引率の先生〉

- 普段体験できない自然との触れ合いやそれを通して人との出会いなどができ、とても素晴らしい事業だと感じた。なかなか体験できないことをさせてもらった。
- いろいろな海洋研修があり子供たちがそれぞれ好みに合わせて選ぶことができたのがよかったと思う。個々に応じた対応ができる多様なプログラムがあった。
- 子供と引率者を分けたプログラムは以外に良い結果・成果があり、とても嬉しく思う。

《改善すべき点》

〈児童・生徒〉

- もう少しゆとりが欲しかった。時間がハードだった。
- 他の学級との交流の時間をもっと増やしても良かったと思う。五色綱引きはもっとやりたかった。

〈引率の先生〉

- 生徒間、教室間の交流する場をもう少し早い段階で持ちたい。交流プログラム（海での研修でも）で児童生徒間の仲間作りを図るとなるといいと思う。
- 参加者が例年より少ない感じがした。もっと早めに案内文書が届くと各学校への呼びかけもできたと思う。次年度は早めの対応をお願いします。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

本企画は、自然体験を通して不登校の児童生徒の交流が目的であり、テント生活や海洋研修、炊飯活動やレクリエーションなどの活動を経験することにより参加者同士が協力・協働を行うことにより、仲間の大切さ、自分の在り方を再認識することを目指した。参加児童・生徒は、集団生活での協力することや自主性を学び、自然の偉大さ素晴らしさを感じ、渡嘉敷の自然の中で成長しながら過ごすことができた3泊4日間であった。

また、生活していくには一人ではなく、仲間の大切さそしてコミュニケーションの大切さを実感する機会となっていた。

プログラムの中には、五色綱引きやグラウンドゴルフなどのスポーツ活動があり、盛況であった。

参加者は非日常のなかで自分や友達をみつめ、それぞれが改めて自分の生き方に決意することができたと思う。

カウンセラーを中心として各適応指導教室の引率の先生方やボランティアとの連携がうまくいったよかった。

2 今後の課題

本事業は17回を迎え、これまで県内外において先導的役割を果たしてきた。今後は内容をより充実したものとするために、研究を深め内容の充実にも努めていかなければならない。

早い段階での学校や適応指導教室への開催案内と各適応指導教室間の交流プログラムの持ち方が次年度の課題である。

また、今回は一部で参加児童生徒と引率者を分けてのプログラムを展開した。次回からは、完全に切り離して事業が展開できるようなプログラムの開発が必要となる。

もっと多くのボランティアを活用できるようにできれば、引率者があんなに多く参加する必要はなくなると思う。

Ⅳ おわりに

今回の事業は、最初は天候に恵まれていたが、2日目の夜（夕食・シャワーの後）に、雷雨と激しい雨で、急遽本館での宿泊となった。

2日目と3日目の一部が予定どおりプログラムを展開することができなかったが、快晴だけではなく、大雨があったりして、自然の凄さ・こわさを身にしみて感じることもできた。

今回の参加者はとても不登校には見えないような元気で活発な児童生徒が多く参加し、担当としてとてもうれしい4日間であった。

この事業が成功できたのも臨床心理士の先生、ボランティア、引率の先生方の協力があったののだと思います。今回の体験を生かし、学校生活でもいきいきと生活して活躍していくことを期待します。